



防災に関する国際標準化（防災ISO）

資料3-1



- 2015年、東日本大震災後の一連の防災に係る活動及び取組の中で、仙台防災枠組（第3回国連防災世界会議）が、仙台市で提案
- 2019年、G20において、仙台防災枠組の政策化が宣言
 - 自助・公助・共助の仕組み作りについて、諸外国のリーダーシップを期待

仙台防災枠組により、目標を達成する方法に関するベストプラクティスや手引の必要性が明確に

- 2019年、第2回世界BOSAIフォーラムにおいて、**東北大学が中心となって「防災に関する国際標準化」を提案**
- **防災ISO（概念/個別）委員会（会長：今村文彦教授）を発足**
国際標準化に向けた取り組みを展開中（協力機関：防災科技研、日本規格協会）
 - ・ 利害関係者のニーズと標準化に対する期待を特定し、既存の基準とインフラの改善、コミュニティの災害耐性／災害起因の混乱からの迅速な回復能力に関するベストプラクティスとのギャップを分析

期待される効果

- 負の影響の低減：自然災害を予測し、人為災害、気候変動など予測の難しい災害に対して対応力が向上
- 正の効果の増大：インフラの維持管理、情報コミュニティの形成、技術的なイノベーションの促進、などの活動を強化

新しい防災産業の創出へ